

しろちどり

第 61 号

特集：三重県支部総会



2009 年 8 月 日本野鳥の会 三重県支部

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

2009 年度日本野鳥の会三重県支部総会

2009 年 5 月 17 日 13 時 30 分~15 時 00 分
三重県総合文化センター中会議室

5 月 17 日 (日) 津市の三重県総合文化センターにおいて 2009 年度日本野鳥三重県支部総会が開かれました。(委任状 165 通+出席者 37 名 計 202 会員総数 340 名の過半数に達し総会成立)

総会は石原理事の司会進行で始まり、まず平井支部長から挨拶がありました。

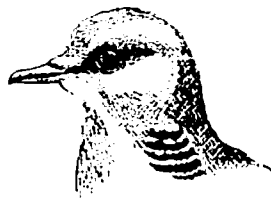
そのなかで支部長は、近年津市の海岸でミュビシギを夏冬通し観察できるようになったことを例に挙げ、自然の変化に気がつくのは継続して記録を付けることが大事で、そのことは私たちの責務ではないかと話し、支部の記録として野鳥情報の収集、協力をお願いしました。また、支部長は会員が減少傾向にあることにふれ、原因のひとつに鳥の楽しみ方が多様化してきているのではないかと、会員数を増やすことが大切であり、いろいろな楽しみ方ができるようにしたいなどと抱負を述べました。

さらに (財) 日本野鳥の会が公益法人化するために、支部の名称が使えなくなり、支部の名称の変更が課題となっていることや、東紀州地区を立ち上げることにについて報告しました。

続いて議長に前澤昭彦理事、小坂里香理事が選出され、議事録署名人に松島雅之氏、澤村保廣氏を指名しました。以下、各項目について承認されました。

議事

- 1) 2008 年度活動報告
【保護部、研究部、編集部、企画部、事務局】
- 2) 2008 年度決算報告、監査報告
【事務局会計担当、監事】
- 3) 2009 年度役員候補
【事務局】
- 4) 2009 年度活動計画
【保護部、研究部、編集部、企画部、事務局】
- 5) 2009 年度予算
【事務局会計担当】



2008 年度活動報告

2008 年度保護部活動報告

1) 風力発電問題

○青山高原風力発電増設についてのアセス方法書への意見提出

調査計画の不足、国定公園の中心につくることへの疑問を提出した。

アセス委員会傍聴(2009/3/22)

道路建設により、法面が多く発生することが明らかになった。これにより、シカが増える可能性あり。

○度会町の風力発電計画についてはクマタカの調査をすることができなかった。

2) 中勢地方オオタカ繁殖調査 (県委託調査) (調査継続中)

2008 年繁殖は失敗、原因は不明だが、工事により巣の周囲に人が入れるようになった。

2009 年は 3 月初旬につがい確認、おそらく、繁殖行動中。

3) 北勢地方クマタカ調査

(調査継続中)2008 年には幼鳥 1 羽巣立ち、2009 年は営巣木が巣のすぐ上より折れ、営巣できる状態ではない。

4) 木曾岬干拓地チュウヒ調査

2008 年 6 月 21 日名古屋でチュウヒサミットを開いた。

基調講演:「渡瀬遊水池におけるチュウヒの越冬について」

平野敏明氏 (NPO 法人バードリサーチ研究員)

2008 年は 1 巣だけ繁殖

2010 年にチュウヒサミットを開く準備を進めた。財団本部の得た補助金を使い、海外からの講師招聘を計画中

5) 町屋海岸清掃

2008 年 12 月 20 日に清掃、約 40 名が参加、約 350m の海岸を清掃。

2008 年度研究部活動報告

1 委託調査

○県委託ガン・カモ科鳥類一斉調査

調査地点：187ヶ所 調査者：35名

○県委託カワウねぐらコロニー調査

調査地点：17ヶ所 調査者：23名
年3回（7月、12月、3月）

2 WWFシギ・チドリ類モニタリング調査

<北勢> 近藤義孝

<津> 平井正志 石原宏 岡八智子

<伊賀> 前澤昭彦 小林達也 塗矢博一

<松阪> 西村 四郎

*<東紀州> 中井節二

<南勢> 中西章 西村泉 小坂里香
以上12名

*2009年度より新設 下線：新理事候補

2008 年度編集部活動報告

58号 特集：三重県支部総会 チュウヒサミット2008 17ページ（7月発行）

59号 特集：野鳥に関する書籍
17ページ（11月発行）

60号 特集：60号記念アートギャラリー（カラー印刷）15ページ（3月発行）



2008 年度企画部活動報告

1 探鳥会

51回の探鳥会を企画し、そのうち5回雨で中止、46回が開催された。定例探鳥会は木曾岬干拓地で12回、海蔵川で4回行った。詳細は支部報に掲載した。

2 野鳥講座

第1回「北海道の海鳥」08.5.18

講師 新妻 靖章氏 総会後

第2回「野鳥デジタル写真教室」08.11.29

講師 前田 崇氏 参加者 17名

第3回「イヌワシと白山の自然」09.2.1

講師 上馬 康生氏 参加者 18名

2008 年度事務局活動報告

1 総会

2008年5月18日（日）津ヨットハーバー

2 理事会

第1回5月18日（日）津ヨットハーバー

第2回8月3日（日）津市雲出市民センター

第3回11月8日（日）津市雲出市民センター

第4回2009年3月7日（日）津市雲出市民センター

2009 年度役員候補（2年任期）

理事・監事候補

2009 年度活動計画

2009 年度保護部活動計画

1) 木曾岬干拓地保護の問題

2010年夏から秋に名古屋でサミットを開く
木曾三川周辺の環境と合わせて保全する必要がある。

2) 風力発電問題

度会(方法書終了)・青山(方法書手続き中)・白猪山(アセス対象以外)については引き続き監視、特に青山については改変による環境への影響が大きいと考えられる。クマタカ繁殖、渡り、希少種について重視

3) 中勢五主海岸についてシギ・チドリ調査結果

をまとめ、支部報で発表、できれば冊子にする。
ラムサール条約登録をめざす。

4) 猛禽類調査

○中勢オオタカについては今年最終年度の予定。(県委託調査)

支部として独自調査を続けるか否かについては検討する。

○北勢クマタカについては引き続き旅費を支給して調査する。

支部としてクマタカ調査のノウハウを蓄積する必要あり

2009 年度研究部活動計画

今年度もガンカモ科鳥類調査、カワウねぐらコロニー調査、シギ・チドリ類調査を行っていく。

2009 年度編集部活動計画

しろちどりを3～4号の発行したい。

2009 年度企画部計画

探鳥会については現在51回を計画し、うち8回は既に実施されている。

詳細は行事案内を参照ください。

また、野鳥講座についてはこの総会后、近藤義孝会員の「湿原の猛禽 チュウヒ」、前澤昭彦会員の「グース」を開催する。今後も順次企画したいので支部会員の皆様からの要望を承ります。

2009 年度事務局計画

1 総会

5月17日(日)三重県総合文化センター内
中会議室

2 理事会

第1回 5月17日(日)

第2回 8月 2日(日)

第3回 11月15日(日)

第4回 2010年3月 7日(日)

質疑応答

○中勢五主海岸の保護活動について バイクなどの乗り入れに対する取り組みは町屋海岸などの掃除をできないか (新聞などに載せてもらう)

そのことで大事なものとして、認識してもらえないのではないか

→ 三重県はバイクやジャイロカイトについての規制に積極的ではない

どのような対応したらよいか困っている

海岸の清掃について、新聞社を呼びたい(探鳥会も)

○シギ・チドリの調査をどのようにするか 研究部として実際の数の把握をどのように考えるか

→ 調査方法は年3回(最低1回)の調査(範囲は調査者が設定)

結果については、7月頃に春の集計を報告

中部ブロック会議

本年の中部ブロック会議は6月27・28日、岐阜県白川郷のトヨタ白川郷自然学校で行われた。会議には中部各県から多数が参加し、また財団本部からも佐藤副会長を始め数人が参加した。三重県支部からは支部長を始め理事、監事あわせて8名が参加した。

佐藤副会長からあいさつと法人改革に対する取り組みと今後の計画が示された。前回の新潟のブロック会議で本部が「公益財団法人」の認定を受けるために各支部が「支部」の名前をはずし、本部と支部が別組織であることを明確にすることには合意している。

監督官庁の係員とこれまでやりとりがあったが、結局「支部」の名前をはずし、日本野鳥の会+地方名(例:日本野鳥の会岐阜)でOKであるとの回答を得ているとのことであった。本部は来年6月頃に認定を申請し、11月ころまでには公益財団法人としての認定を受けたいとしている。

しかし、これにより、支部と本部の関係は今後

変わらざるを得ない。公益財団法人になることにより、法人の組織など国の指導を細かく受けることになる。本部理事を選ぶのは評議員になり、それも数名程度の極めて少数にせよとの指導である。これまで財団本部の理事、評議員をブロックごとに選んでいたが、それがごくわずかになり、評議員には外部評議員を入れることが必須になる。支部の意見のもとに本部が運営されるという体制が崩れる可能性があり、ブロック会議席上でも懸念が示された。

財団本部の財政が今年かなり改善されたが、それには大口の寄付があったとのことであった。また、Strixを復刊するとの方針が出された。

早朝探鳥会ではアカショウビンの声が間近に聞かれ、プッポウソウが観察されるなど探鳥も堪能することができた。

日本野鳥の会 三重県支部 21年度(2009年度)予算書

21年度 自2009年4月1日 至2010年3月31日

単位:円

科目	20年度実績		比較増減	備考	21年度予算会計区分	
	一般・特別合算	一般・特別合算			一般会計	特別会計
<事業高>						
支部会費	688,000	688,000	0	2000円×344人	688,000	0
受託収入	2,691,150	3,045,000	353,850	オオタカ増他前年並み	0	3,045,000
事業部売上高	27,170	37,000	9,830	販売部在庫売り切り		37,000
受取補助金	103,378	0	-103,378	チュウヒサミット減	0	0
受取寄付金	10,500	10,000	-500	寄附金例年分計上	10,000	0
事業高合計	3,520,198	3,780,000	259,802		698,000	3,082,000
<売上原価>						
期首商品棚卸高	96,505	73,566	-22,939		0	73,566
当期商品仕入高	0	0	0	販売部 廃止へ	0	0
期末商品棚卸高	73,566	0	-73,566		0	0
売上原価	22,939	73,566	50,627		0	73,566
事業利益	3,497,259	3,706,434	209,175		698,000	3,008,434
<事業管理費>						
支払調査費	1,394,739	1,500,000	105,261	オオタカ報酬増	0	1,500,000
報告費	144,000	150,000	6,000		0	150,000
雑損費	297,000	278,000	-19,000		0	278,000
通信費	301,074	312,500	11,426		169,468	143,032
印刷費	355,625	320,500	-35,125	チュウヒサミット減	304,817	15,683
消耗品費	62,177	66,000	3,823		44,885	21,115
減価償却費	158,903	158,903	0		105,321	53,582
会場費	63,080	25,950	-37,130	チュウヒサミット減	17,127	8,823
会議費	1,749	7,000	5,251		3,777	3,223
旅費交通費	566,285	531,000	-35,285	中部ブロック減、バスツアー増	391,540	139,460
支払手数料	72,500	52,500	-20,000		10,198	42,302
講師謝礼金	70,000	30,000	-40,000	野鳥講座減	30,000	0
図書費	0	0	0		0	0
寄付金	0	0	0		0	0
諸会費	11,000	11,000	0		11,000	0
雑費	33,670	32,981	-689		11,035	21,946
事務費	77,000	77,000	0		0	77,000
保険費	35,800	35,700	-100		0	35,700
一般管理費合計	3,644,602	3,589,034	-55,568		1,099,168	2,489,866
事業総利益	-147,343	117,400	264,743		-401,168	518,568
<事業外収益>						
受取利息	21,737	25,000	3,263		25,000	0
雑収入	35,000	20,000	-15,000	チュウヒサミット減	20,000	0
事業外収益合計	56,737	45,000	-11,737		45,000	0
当期純利益	-90,606	162,400	253,006		-356,168	518,568
<税金等>						
法人税等	189,500	162,400	-27,100	前年分法人税減	0	162,400
税引後利益	-280,106	0	280,106		-356,168	356,168

* 一般会計356,168円の赤字、特別会計356,168円の黒字、差し引き利益0となる。

豊津浦・町屋浦の野鳥

平井正志（津市）

海岸の概況

この地域、田中川河口から志登茂川河口までは伊勢湾のほぼ中央部西側の海岸で、自然の砂浜海岸がよく残されている。田中川河口から旧河芸町と津市の境界までを豊津浦、境界から白塚漁港までを白塚海岸、白塚漁港から志登茂川河口までを町屋浦と称している。田中川河口右岸には小規模ではあるが伊勢湾岸ではめずらしい河口干潟がある。かつては左岸にも干潟があったが、当時の三重野鳥の会の反対を押し切って、河芸アリーナが作られ、左岸の干潟は消滅した。右岸干潟と海岸の間は草地になっていて、ハマボウフウなどの海岸植生があり、かつてはシロチドリが営巣した。田中川から河芸漁港までは砂浜海岸が続き、一部にクロマツの植林がある。河芸漁港から白塚漁港までの間も砂浜海岸であり、海岸植生があり、クロマツの植林がある。白塚漁港から志登茂川河口までは砂浜海岸であるが、北部は海岸の奥行きがやや狭くなっている。しかし、弁天樋門から南は海岸の奥行きも広い。近年で海岸の顕著な後退は見られないが、地元の漁師の話ではかつての波打ち際がもっと遠かったという。数はけっして多くはないが、この海岸でアカウミガメが産卵する。

砂浜海岸や田中川河口の干潟周辺ではハマボウフウ、ハマダイコン、ハマヒルガオなどの海浜植生が全域で見られる。一部にはハマナデシコ、カワラナデシコも見られる。

海岸の後背地はほとんどが住宅であるが、田中川河口干潟の後には養魚池が残されている。河芸漁港の後背には水田と葦原があったが、近年宅地になりつつある。また、白塚海岸の背後は芦原であったが、現在下水処理場が建設されつつある。

海岸および海岸近くでの漁業、

海岸そのものを使った漁業活動はほとんど行われていない。豊津浦では秋から冬にかけて、海苔の種付けのためのノリソダが砂浜からすぐ近くの海面に立てられる。また、貝類の採集が海岸からすぐの沖で行われる。豊津浦では海岸に煮干しの加工場が多くあったが、現在は一部が倉庫として利用されているだけである。町屋浦では堤防

より陸地側で煮干などの加工が行われ、煮干を天日に干すのが見られる。

調査方法

鳥類の概況は環境省モニタリング 1000 シギ・チドリ調査結果に独自の調査結果を加えて解析した。観察は町屋浦弁天樋門付近、白塚海岸、豊津浦河芸港南の海岸、豊津浦中別保樋門の北、田中川河口右岸の海岸および田中川河口干潟の6地点を干潮時に調査し、集計した。なお、同一個体群が調査時間中の移動により重複して観察されたと想定できる場合は除外した。1回の調査に概ね1時間を要した。

鳥類の概況

海岸で数多く見られる鳥はカモメ類、カラス類である。カモメは主としてユリカモメ、セグロカモメであり、夏にウミネコが少し混じる。オオセグロカモメはきわめて少ない。春と秋にはセグロカモメ・ユリカモメの大群が立ち寄る。ユリカモメは天日干しにしている煮干を狙って取るものもある。猛禽類はごく少なく、希にミサゴが海岸に近い海上を飛ぶ程度であり、トビはほとんど見られない。カラスはほとんどがハシボソガラスであり、ハシブトガラスが少し混じる。個体数がきわめて多く、海岸で打ち上げられた魚貝類や水産加工場の廃棄物などを漁っている。特に白塚漁港周辺と町屋浦に多い。また、ハクセキレイも砂浜でよく見られる。海岸と隣接した草地ではヒバリ、セッカが繁殖する。夏にはコアジサシが海岸付近の海で餌を採る。また、アジサシも渡りの時期に海岸近くの海上を飛ぶのが見られる。カワウは海上で多く見られ、海岸でも休息しているのがまれに見られる。近年海上では500羽を超える群が集団で魚を追っているのがしばしば見られるようになった。近年増加傾向にあると思われる。冬期は沖合でハジロカイツブリ、スズガモ、ホオジロガモ、ウミアイサなどが見られるが、海岸付近にはあまりよりつかない。海岸近くにはマガモなど陸ガモも少数ながら見られる。

ズグロカモメの飛来

また田中川河口の干潟付近では冬にズグロカモメがみられる。2001年から2002年にかけての冬と2004年から2005年にかけての冬にはそれぞれ、1羽および2羽が越冬した。2002年12月29日には5羽が見られた。2005年12月を最後に近年は見られなかったが、2008年は見られるようになったが、定着はしていないようである。

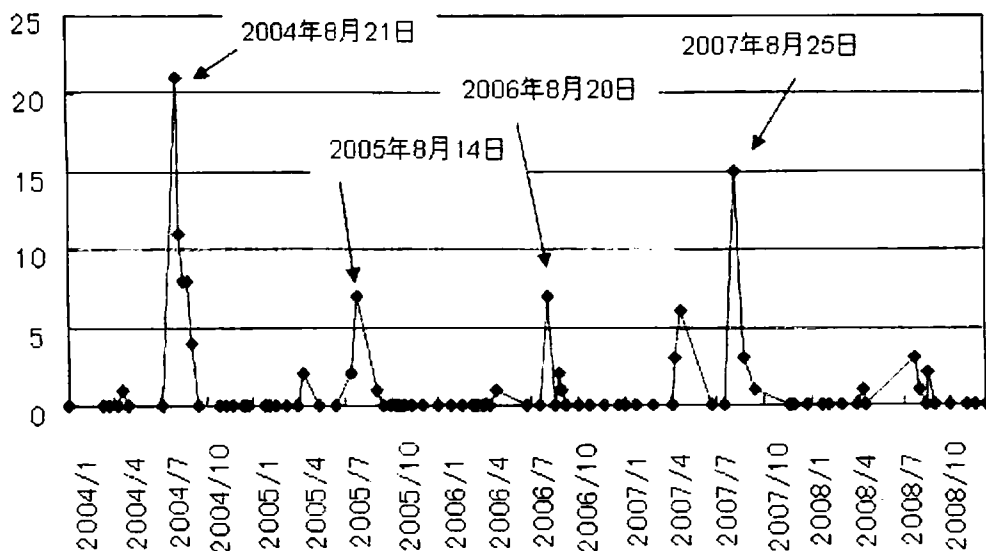
その他まれな陸鳥の例として、この地域でハマヒバリ(2006/12/23から越冬)(第1図)、ヤツガシラ(2006/3/25)が記録されている。



第1図 ハマヒバリ (岡 八智子撮影)

シギチドリ類の概況

海岸で見られるシギ・チドリ類の個体数は多くはない。田中川河口干潟では様々なシギ・チドリが見られるが、個体数は少ない。それでも、チュウシャクシギ、メダイチドリ、キアシシギなどは



第2図キアシシギ飛来数の変化 (豊津浦・町屋浦)

よく見られる。稀に、ホウロクシギ(2004/10/2, 2004/10/16, 2004/5/4)、ヘラシギ、アカアシシギ(2004/9/4)も見られる。ヘラシギはこの海岸のどこかで近年ほぼ毎年1羽が夏から秋に観察されている(2004/8/27, 2005/10/6, 2006/9/22, 2007/9/9)が、いずれも幼鳥である。砂浜海岸ではシロチドリ、ミュビシギ、ハマシギが主であるが、それ以外に少数のキョウジョシギ、チュウシャクシギ、キアシシギが見られることもある。キアシシギの通過は主に8月下旬以降の秋であるが、近年は減少傾向にある(第2図)。

ハマシギは砂浜海岸でもまた

田中川河口の干潟でも見られる。夏から秋にはほとんど見られず、主に冬から春にかけて見られ、飛来個体数は年により大きく変動するが、近年はピーク時で400羽前後であった(第3図)。最近

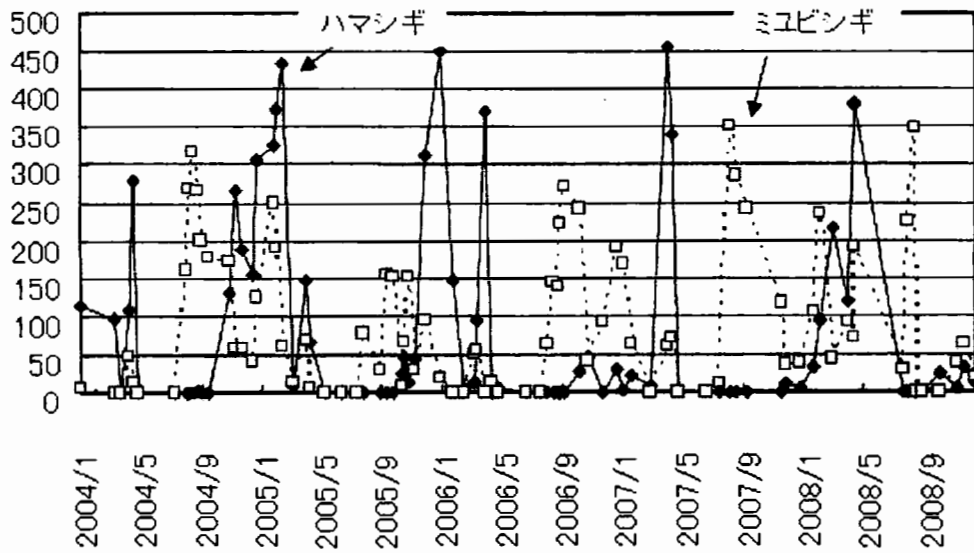
繁殖期	観察ヒナ数
1996	21
1997	22
1998	14
1999	8
2000	6
2001	3
2002	8
2003	3
2004	6
2005	7
2006	5
2007	2
2008	1
2009	8

第1表シロチドリ繁殖数の変化

での最高観察数2005年12月31日の1068羽であった。2008年にはミヤコドリが見られるようになった。2009年7月4日には16羽が観察された。

シロチドリとその繁殖

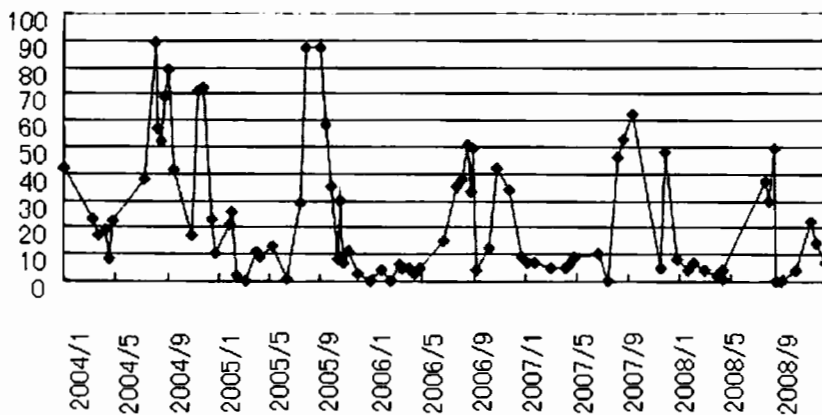
この海岸ではシロチドリが常にみられ、全域で繁殖する。し



第3図ハマシギおよびミュビシギ飛来数の変化(豊津浦・町屋浦)
ハマシギは実線で、ミュビシギは破線で示す。

しかし、1990年代に見られたような旺盛な繁殖は見られず、この10年くらいは年に数羽のヒナが観察されるにすぎない(第1表)。ただし、近年は観測体制が十分でないので、もう少し多いヒナがふ化している可能性もある。しかし、多く見積もっても10羽以下であろう(第1表)。

また、繁殖期に観察される個体数も2005年以降は10羽かそれ以下であり、以前に比べると少ない。繁殖が減少した原因は明らかではないが、



第4図シロチドリ飛来数の変化(豊津浦・町屋浦)

海岸への人の立ち入りなどに起因していると思

られる。繁殖期は4月から6月で、抱卵期がちょうどゴールデンウィークに重なり、レジャー客の進入で抱卵を放棄する親鳥がいる。繁殖の終わった、7月中旬以降に渡り個体が見られ、個体数が増加する。観察個体数のピークは秋の渡りの時期である。越冬と思われる個体はあまり多くない。以前のピーク時の個体数は90羽前後であったが、

2006年以降は50羽から60羽であり、シロチドリは減少傾向にあり、傾向は藤前干潟と同じである(第4図)。

ミュビシギ

ミュビシギは全世界で60万羽生息するとされているが、東アジア飛行ルートを通るミュビシギは22,000羽のみとされている。日本では主に秋に2,000羽程度が観察されている。この海岸では

ミュビシギは継続して飛来し、まれに越冬する。本格的な観測を始めた2002年からは毎年の最高数が東アジアシギ・チドリ飛行ルート推定生息数の1%である220羽を越えていたが、2005年は最高でも156羽であった。しかし、その後も2006年から2008年までピーク時は300羽前後であり、明らかに増加傾向であり、この海岸がミュビシギの重要な飛来地であると考えられる(第5、6図)。秋の渡りの時期には脚にオレンジ色のフラッグをつけた個体が観察され



第5図 ミユビシギ (石原 宏撮影)

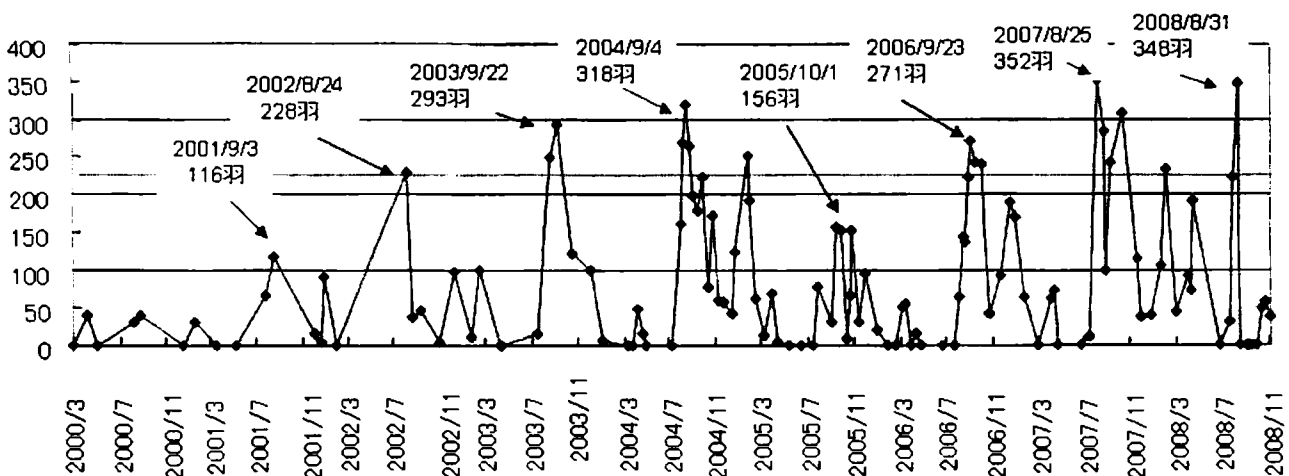
るので、オーストラリア南部で越冬した個体がか
なりあることを示している。2007年から2008年
の冬には最低でも37羽、多い時には234羽が観
察され、かなりの個体がこの周辺で越冬したと考
えられる。2008年の秋は夏の終わりに東海地方
に豪雨があり、大量の葎くずとゴミが豊津浦・町
屋浦に流れ着き、8月31日に348羽を記録した
ミユビシギが一時全くいなくなった。しかし、秋
の終わりには50羽程度が定着した(第6図)。

鳥類生息環境の保全

地元の漁師の話では昔に比べ海岸がやせたとい
うが、各地の海岸で見られる砂浜の目立った後

退はこの地域の海岸では
近年観察されていない。海
岸への人の立ち入りは付
近の人口増加により、徐々
に増加しており、鳥類とく
に、シロチドリの繁殖に悪
影響を与えている可能性
は否定しきれない。2004
年には支部の反対にはか
かわらず、シロチドリが継
続して繁殖していた砂浜
に河芸町の地元自治会が
豊津浦の海岸に防風林と
称してマツを植えた。植林
はしたが、その後ほとんど

管理はせず、ほとんどが枯れてしまい、現在は放
棄されている。白塚海岸では下水処理場のために、
海岸を狭くする計画が確定している。それ以外に
海岸の改変の計画は明らかになっていないが、こ
れ以上の海岸の改変はぜひとも避けるべきであ
る。海岸でのレジャーは鳥類の生息に影響を及ぼ
している。豊津浦、中別保樋門付近では毎年ジェ
ットスキーのために、海岸に多くの車が進入し、
長時間駐車する。近くで繁殖するシロチドリに悪
影響を及ぼしている。2009年にはシロチドリの
巣が進入した車でつぶされた。町屋浦ではカイト
ボードが、また時としてモーターパラグライダー
が海岸上空を飛ぶが、接近すると抱卵中のシロチ
ドリが逃げ出すのが観察されている。海岸にサン
ドバギーが進入することもよくある。海岸の生物



第6図ミユビシギ飛来数の変化(豊津浦・町屋浦)

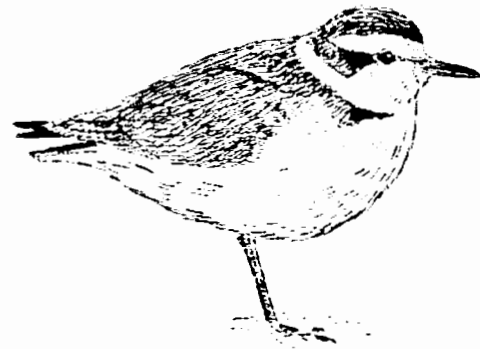
に配慮したレジャーを心がけるべきであるし、海岸を管理する行政当局からの呼びかけや規制も

必要であろう。

今年のシロチドリの繁殖

表に示したように町屋浦・豊津浦では1990年代に20羽以上のヒナが孵化していましたが、その後は著しく減り、近年はひと桁のヒナしか観察されていません。今年も5月3日に早くもヒナが2個所で観察され、7月初めまでで合計で8羽が観察されました。この数年ヒナの孵化が観察されていなかった、2個所でヒナの孵化が観察されました。これまでヒナがしばしば観察されてきた町屋浦では残念ながら今年もヒナが観察できませんでした。また、豊津浦の中別保樋門付近では5月23日から抱卵が確認されていた巣がひとつありましたが、6月6日には轍の跡も生々しく、踏みつぶされていました。卵殻などは見つかることができませんでしたが、親鳥の仕草からして付近にヒナがいる様子もなく、おそらく、卵はつぶされたものと考えられます。この海岸は以前からジェットスキーの客が砂浜まで車を乗り入れて長

津市 平井正志
時間駐車しています。一部の車が巣のある草地に入り込んだものと考えられます。この海岸には以前支部が立てた看板がありましたが、いつのまにか無くなっています。もう一度建てる必要があるでしょう。(豊津浦・町屋浦の野鳥表1参照)



シロチドリ (しろちどり創刊号より平井正志絵)

	取扱商品
	フィールドスコープ 双眼鏡(小型・大型) 天体望遠鏡 カメラ(新品・中古) その他光学製品各種
	取扱メーカー
	KOWA・NIKON・FUJINON MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他
中部地区最大の光学製品専門店	
TELESCOPE CENTER EYEBELL	
テレスコープセンターアイベル (株式会社アイベル)	
〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスター2F) TEL 059-228-4119	
定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00	
ホームページ http://www.eyebell.com メールアドレス eyebell@diamond.braba.cc	



表紙の言葉

北川和則（多気町）

サシバが飛来するところになりました。
夏鳥がやってくるで
自分が一番楽しい季節になりました。

編集コメント

絵を送っていただいたのは3月30日、しろ
ちどり61号の発行が遅れました。

目次

特集：日本野鳥の会三重県支部総会・1
 中部ブロック会議……………3
 2009年度予算書……………3
 豊津浦・町屋浦の野鳥……………5
 今年のシロチドリの繁殖……………9
 表紙の言葉……………10
 目次……………10
 ナベヅルの越冬地に銃猟禁止区域・10
 野鳥記録……………11
 雲津川に飛来したオオハクチョウ…12
 事務局だより……………13
 理事会報告……………13
 探鳥会報告……………14
 しろちどり60号正誤表……………20
 藤前干潟ふれあいデー案内……………21
 しろちどり原稿募集……………21
 編集後記……………21

ナベヅルの越冬地に銃猟禁止区域が設定されます。

昨年2008年12月にナベヅル11羽が伊勢市豊浜に現れ、長期間滞在し、越冬するのではないかと思われました。ナベヅルはこれまで、何度か伊勢地方に飛来しており、地元でも伊勢豊浜ナベヅルを守る会が12月21日に設立され、保護に乗り出しました。

しかし、その後すぐにナベヅルはいなくなり、愛知県田原町へ渡ったようです。その後、今年1月11日に一旦は帰ってきましたが、その後再び行方不明になりました。ナベヅルがいなくなった原因として狩猟による銃の音におびえていたとの情報がありました。

そのため三重県支部は、伊勢豊浜ナベヅルを守

る会と共に、ナベヅルが越冬のために採餌・休息する場所と考えられる地域を銃猟禁止にするように県当局に働きかけました。

その結果、今年伊勢市豊浜を中心とした一帯が、「伊勢市豊浜・宮川下流域特定猟具使用禁止区域（銃猟）」に指定されることになりました。これにより銃の使用はできなくなり、ナベヅルが再び飛来しても銃声におびえるという事態は避けられます。ただし豊浜の近隣にある有滝については、残念ながら銃猟禁止区域に指定されませんでした。このままでは保護対策として充分とはいえないため、今後も銃猟禁止区域を拡大するよう県当局に働きかけていきたいと思ひます。

野鳥記録(2009年3月～09年6月に報告のあったもの)

※表中の「報告者」は「初認者」ではない場合もあります。

種名	個体数	記録日	場所(通称など)	記録報告者	写真	備考
ウグイス初鳴	1	2009/2/5	紀北町小山浦	西村四郎	×	1
ウグイス	1	2009/2/12	度会郡度会町棚橋	小坂 里香	×	2
コチドリ	2	2009/2/28	桑名市多度町	横山真一	○	3
ウグイス	1	2009/2/28	津市牧町八柱神社付近	高尾 幸子	○	4
Larus smithsonianus	1	2009/3/1	鈴鹿市長太新町四町目海岸	安達 直孝	○	5
アオアシシギ	7	2009/3/1	員弁郡東員町地内の員弁川河川敷	横山 真一	○	
キレンジャク	1	2009/3/5	三重郡菰野町菰野 R306菰野大橋	矢田 栄史	×	
ベニマシコ	2	2009/3/15	度会郡度会町上久具宮川右岸河原	小坂 里香	×	
ツバメ	3	2009/3/19	鳥羽市鳥羽4丁目	杉原 豊	○	6
カナダカモメ	1	2009/3/25	津市乙部海岸	宮越 和美	○	7
カナダカモメ	1	2009/3/30	津市白塚海岸	安達 直孝	○	8
クロツラヘラサギ	1	2009/4/4	松阪市高洲町 金剛川河口	中西 章	○	9
アオバズク	1	2009/4/27	度会郡度会町上久具	小坂 里香	×	10
ツツドリ	1	2009/4/29	度会郡度会町宮リバー公園	小坂 里香	×	11
キビタキ	1	2009/5/4	自宅	西村 四郎	○	12
エゾムシクイ	1	2009/5/9	三重郡菰野町千草 三重県民の森	矢田 栄史	×	13
ケアシノスリ	1	2009/5/16	桑名郡木曾岬町木曾岬干拓地	近藤 義孝	×	
ホトトギス	1	2009/5/19	度会町棚橋	小坂 里香	×	14
セグロカモメ	1	2009/6/5	鈴鹿派川河口干潟	安達 直孝	○	15
カンムリカイツブリ	2	2009/6/5	鈴鹿川河口	安達 直孝	○	

- 備考1 同日同地でソウシチョウも確認。
- 備考2 初認記録。
- 備考3 コチドリの越冬記録。
- 備考4 初認記録。
- 備考5 セグロカモメ70羽ほどの群れにいたとのこと。和名はアメリカセグロカモメまたはウスセグロカモメで、一定していない。報告者はアメリカセグロカモメと記載。(記録担当コ)
- 備考6 昨年(2008/3/27初認)より8日早く同場所に確認。
- 備考7 非会員の報告。会員紹介、追認あり。(記録担当コメント)
- 備考8 備考7の記録の追認。この後この後、4/5にも同所で観察。
- 備考9 昨年に同場所で観察した個体と同じではないかと思わます。
- 備考10 特徴ある声のみの確認。毎年渡来し付近で繁殖している。今シーズン初認。
- 備考11 4/29にも声を聞いた。渡りの途中と思われる。桜並木にとまっていた。今シーズン初見。
- 備考12 自宅の裏で畑仕事をしているとき、居着いている猫が鳥を捕まえたのを見たのでよく見るとキビタキみでした。とりあげて保護しましたが(写真)何度もかまれてぐったりしていたのでダメかと思いましたが、家の中で安静にしていたら飛ぶようになったので山で放鳥しました。渡りの途中で疲れていたのでしょうか、渡り鳥の受難を思うと同時に、野生の逞しさを感じました。
- 備考13 エゾムシクイは数年前に県民の森でさえずりは聞いたことがある。今回地鳴きを聞いたのも姿を見たのも初めてである。
- 備考14 今季初認。深夜1時すぎに声を聞いた。以後毎日、自宅付近で鳴いている。(7/10現在)
- 備考15 この時期のセグロカモメは相当に珍しいと思う。

※「備考」は、特に注意のない限り、報告者のコメントから抜粋したものです。

観察記録募集！支部のHP http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/index.htm から簡単に投稿できます。支部報に掲載できない記録もデータとして保存しています。ぜひご協力ください。

雲出川に飛来したオオハクチョウ（幼2羽）

小野 新子（松阪市）

初認 2008年12月11日 終認 2009年4月10日

桜が咲いても一向に帰る気配が感じられないオオハクチョウの幼鳥たちだったが4月10日の朝7時頃 近鉄名古屋線鉄橋より上流で2羽がゆったり浮かんでいるのを見たのが最後に姿が見えなくなった。

飛来した頃は嘴の黄色い部分がまだ白く羽根のグレーが目立っていた。何を食べていたのか いつも水中で逆立ちをしてエサをとっていた2羽の姿をほほえましく思い出す。

3月に入ってから行動範囲が広がり 大正橋下流から名古屋線鉄橋の上流を餌場としていたようだ。エサが足りていたかどうかは分からないが 帰る頃には嘴も随分黄色くなり羽根も白くなって来ていたように思った。

それにしても朝散歩をしていてハクチョウを見つけた時は驚いた。まさか我が在所にハクチョウが飛来するとは思ってもみなかっただけに 嬉しさと心配が頭の中を駆け巡った。

一番の心配はやはり狩猟の問題だった。毎年シーズンになると対岸を猟犬が走っているのを見ていたからだ。その心配は10日後（12月21日）に起きた。鴨猟の鉄砲の音に驚いて鴨たちと一緒にどこかに飛び立ってしまったと連絡が入った。親とはぐれたのだろうか 雲出川を選んで降り立ったあの子たちを 鉄砲で追い立ててしまったことに申し訳ない気持ちで一杯だった。



それまで狩猟と言うものを身近に感じていなかったが 改めて「三重県鳥獣保護区等位置図」に目を通して見ると 我々が生活している身近な場所で狩猟が許可されていることに驚いた。それとカモ類のすべてが狩猟の対象になっていることにも驚く。狩猟が許可されている以上仕方がないが 野鳥観察を楽しんでいる者には悲しい現実であることに違いない。

12月31日ハクチョウたちがもとの所に戻ってきていると 一緒に観察していた方から連絡が入った時はうれしかった。そしてオオハクチョウが居ることを県の「鳥獣行政機関」と近辺を飛んでいる「オートジャイロ」の飛行者に 河川上空を飛ばないように連絡していただいたそうで 本当にありがとうございました。以来ハクチョウたちは のんびり雲出川で冬を越していった。

雲出川にオオハクチョウ・・・
結構似合っている景色だった。いつも見慣れた風景がハクチョウたちのお陰でグレードアップして見えた。
無事北に帰って行っただろうか。いつの日かあの子たちが家族を連れて また雲出川に降り立ってくれたらどんなにうれしいことだろう。

事務局だより

支部活動の記録（2009年3月～7月）

- 3/8 第4回理事会
- 3/20 支部報「しろちどり第60号」発行・発送
- 3/22 三重県環境影響評価委員会を傍聴
- 3 委託事業のまとめ作業／年度末決算
- 4/22 平成21年度鳥獣保護区等の指定計画について意見書を提出（環境省・全2通）
- 4/24 平成21年度防ダム環境調査委託について県と契約
- 5/10 2008年度決算について監査
- 5/22 平成21年度鳥獣保護区等の指定計画について意見書を提出（伊賀・全2通）
- 5/28 平成21年度鳥獣保護区等の指定計画について意見書を提出（四日市・全2通）
- 6/3 五主海岸工事について説明会
- 6/12 平成21年度鳥獣保護区等の指定計画について意見書を提出（松阪・全3通）
- 6/15 平成21年度鳥獣保護区等の指定計画について意見書を提出（熊野・全2通）
- 6/25 平成21年度カワウねぐらコロニー調査委託について県と契約
- 6/27～28 中部ブロック会議に参加（岐阜県）
- 6/30 平成21年度鳥獣保護区等の指定計画について意見書を提出（南勢・全8通）
- 7/8 平成21年度鳥獣保護区等の指定計画について意見書を提出（津・全2通）

●今後の予定

- 8/2 第2回理事会
- 8/11 支部報「しろちどり第61号」発行

理事会報告

第4回（2009年3月8日）13:30～16:30

津市雲出市民センター 出席者9名

○支部名称について

2009年総会での変更は延期、総会で支部長が法人化問題について経過を説明

○来期の体制 東紀州地区の設置

○総会の準備

○各部

・事務局 総会 5月17日（日）

理事会 5月17日 8月2日

11月15日 3月7日

総会の体制 委任状を出すように要請

・保護部 活動報告・活動計画 別紙

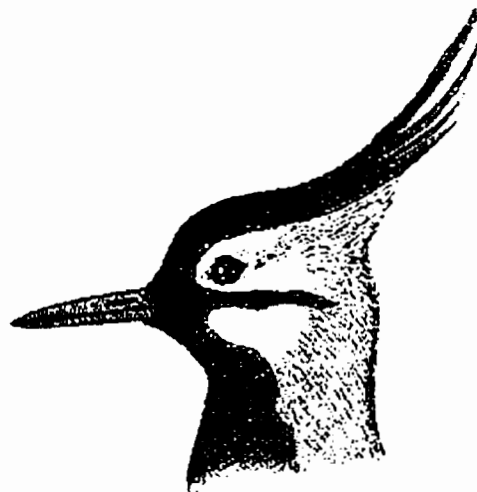
風力発電について意見提出

中勢地区オオタカ調査継続

北勢地区クマタカ調査 旅費支給

中勢海岸の調査結果、支部報で発表（冊子に） ラムサール条約登録を目指す

・編集部 年4回の発行を目指す



・企画部 探鳥会・野鳥講座 実施報告・計画 (別紙)

しぜん文化祭 in みえへ出展 3月21日・22日

総会後の野鳥講座 野鳥講座の開催について

探鳥会の案内を新聞に載せるとたくさんの方が集まるので、新聞掲載のお願いする

野鳥講座にかわり 会員限定のバスツアー バス代については支部より補助 (後日決定)

○青山高原 (津市) 風力発電の風車増設について

どのように対応するか 景観が壊れることを根拠に反対する

クマタカのバードストライクの心配

風力発電の効率がどれくらいあるか調べ、これ以上増やす必要があるか

結論: 景観・鳥の生息など多くの問題があるため、反対していく

環境省・三重県・津市へ訴える。

○ 来期の計画

中部ブロック会議 岐阜

五主海岸 ラムサール条約への登録について

来年3月調査 データ (バードリサーチの了解が必要) を発表

紀伊長島 データを支部報へ載せる (環境省の了解が必要)

木曾岬干拓地のチュウヒ保護の方針

チュウヒサミット2010をCOP10の前に開催する (保護のための国際会議を開催)

探鳥会報告 (09年2月~6月)

● 木曾三川探鳥会

2009年2月15日 (日)

桑名市多度町、愛知県愛西市

近藤 義孝 参加者14名 (会員8名)

カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、トビ、ノスリ、チュウヒ、オオバン、ケリ、ユリカモメ、カモメ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、オオジュリン、カワラヒワ、シメ、ニュウナイスズメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト。計47種

一日前の異常な高温がこの日も続き、汗ばむような探鳥会だったが、たくさん鳥に出会って参加者に満足してもらえた。

揖斐川ではシメやチュウヒ、長良川ではハジロカイツブリ、木曾川でミコアイサなどが観察できた。

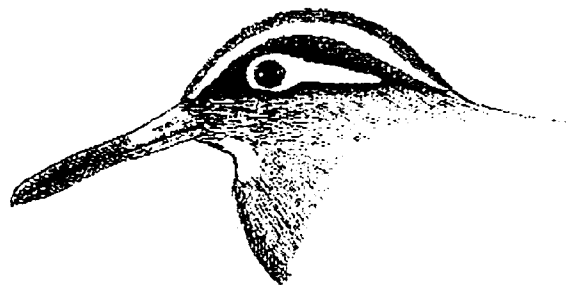
● 薦原探鳥会

2009年2月15日 (日) 9:30~12:10

名張市 薦原

小林 達也・田中 豊成 参加者19名 (会員6名)

カイツブリ(2)、カワウ(3)、ダイサギ(1)、アオサギ(2)、マガモ(1)、コガモ(3)、オカヨシガモ(10)、ヒドリガモ(5)、ミサゴ(1)、トビ(3)、ノスリ(2)、ヒクイナ(1)、バン(2)、オオバン(1)、キジバト(2)、ヤマセミ(1)、イワツバメ(10)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(2)、セグロセキレイ(2)、ヒヨドリ(20)、



モズ(2)、ジョウビタキ(1)、シロハラ(1)、ツグミ(2)、ウグイス(2)、エナガ(5)、ヤマガラ(1)、メジロ(3)、ホオジロ(10)、アオジ(1)、カワラヒワ(10)、イカル(1)、シメ(1)、スズメ(30)、ムクドリ(5)、ハシボソガラス(5)、ドバト(2)。計 38 種

観察出来た鳥も多く、特にノスリ、ヤマセミの幼鳥は参加者に好評でした。移動に車(9台)を使用した、道路が狭く他の通行車両に迷惑をかけた。

● 安濃川下流探鳥会

2009年2月22日(日)9:30~12:00

津市鳥居町→津倍楽公園

岡 八智子・杉村 滋弘 参加者 14名(会員 13名)

カワウ、キジバト、コゲラ、ハクセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、アトリ、カワラヒワ、イカル、シメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計 23 種

昨年夏、下流御山荘橋下の堰がこわれ冬鳥が来なかったので集合場所の公園での探鳥会としました。

ここは桜の花見の為かきれいに落葉も清掃されましたが冬鳥達はまだ居ました。池の主、カワセミ今日は不在で残念でした。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2009年2月22日(日)9:00~12:00

弥富市 共催/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝・米倉 静 参加者 20名

カイツブリ(20)、カワウ(60)、ダイサギ(4)、アオサギ(4)、マガモ(20)、カルガモ(90)、コガモ(120)、オカヨシガモ(30)、ハシビロガモ(30)、ホシハジロ(11)、キンクロハジロ(26)、スズガモ(20000)、ミサゴ(3)、トビ(1)、オオタカ(2)、ハイタカ(1)、ノスリ(4)、ハイイロチュウヒ(1)、チュウヒ(4)、コチョウゲンボウ(1)、チョウゲンボウ(1)、キジ(4)、オオバン(4)、イカルチドリ(1)、ケリ(20)、タゲリ(6)、イソシギ(2)、カモメ(2)、キジバト(10)、カワセミ(1)、ヒバリ(20)、ハクセキレイ(6)、タヒバリ(20)、ヒヨドリ(70)、モズ(3)、ジョウビタキ(4)、シロハラ(1)、ツグミ(40)、ホオジロ(20)、カシラダカ(1)、オオジュリン(1)、カワラヒワ(50)、

スズメ(150)、ムクドリ(50)、ハシボソガラス(100)、ハシブトガラス(20)、ドバト(100)。計 47 種

47種の鳥を観察しました。チュウヒはもちろん、ハイイロチュウヒ・オオタカ・ハイタカ・ノスリ・コチョウゲンボウ・チョウゲンボウ・ミサゴ・トビと猛禽類のフルコースでした。

● 中部台運動公園探鳥会

2009年3月1日(日)9:30~11:30

松阪市立野町中部台公園

谷口 ひろ子・小津 みゆき 参加者 14名(会員 11名)

カルガモ、オオタカ、ハヤブサ、キジバト、アオゲラ(声)、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス(声)、エナガ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計 20 種

昨夜からの雨も朝方にはあがり、暖かい半日でした。

休日の為、ジョギング、ウォーキングの人達が沢山いて、鳥達もすぐ飛び立ち、又公園があまりにも綺麗に清掃されていて落ち葉もなくこれでは鳥達の餌となる虫達はいないだろうと思いました。

● 石垣池探鳥会

2009年3月1日(日)10:00~12:00

鈴鹿市石垣3丁目 石垣池

市川 美代子・前田 守・内田 信也・鈴木 佳子 参加者 14名(会員 6名)

カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨ



シガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、キジバト、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計 24 種

鈴鹿の広報に掲載していただきましたので、非会員の方が 8 名来て下さいました。カワウとカモなどゆっくりと観察していただきました。楽しんでいただけたでしょうか。



● 朝熊山麓・絆の森バードウォーキング

2009 年 3 月 1 日 (日) 10:00~14:00

伊勢市朝熊町 絆の森

小坂 里香・竹林 康 参加者 7 名 (会員 6 名)
カイツブリ(1)、コガモ(20)、オカヨシガモ(4)、ハシビロガモ(2)、キンクロハジロ(80)、ミサゴ(1)、トビ(5)、オオタカ(1)、ヤマセミ(2)、コゲラ(地鳴き)、ヒバリ(地鳴き)、ハクセキレイ(2)、ヒヨドリ(2)、モズ(2)、シロハラ(1)、ツグミ(4)、ウグイス(3 さえずり)、エナガ(3+)、ヤマガラ(1)、メジロ(多)、ホオジロ、アオジ(地鳴き)、カワラヒワ(80)、ウソ(地鳴き)、ベニマシコ(地鳴き)、ハシブトガラス、ドバト(3)。計 26 種

集合したところで思いがけず上空をヤマセミが飛んで一同びっくり。姿は見えませんでした。ウソの声やウグイスのさえずりをききながら森林浴を楽しみ、昼食時にはオオタカの帆翔に感動。最後に調整池でカモたちと別れを惜しみ、ビンゴの答え合わせをして解散しました。青空に恵まれ、少人数開催がもったいなかった探鳥会でした。

● 海蔵川探鳥会

2009 年 3 月 17 日 (火) 9:40~12:00

四日市市西坂部町

尾畑 玲子・高 和義 参加者 19 名 (会員 15 名)
カイツブリ(4)、カワウ(2)、アオサギ(1)、カルガモ(13+)、バン(1)、オオバン(1)、キジバト(1)、

カワセミ(1)、ヒバリ(1)、ツバメ(初見 1)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(2)、ヒヨドリ(5)、モズ(5)、ツグミ(4)、ウグイス(1)、ホオジロ(2)、アオジ(2)、カワラヒワ(4)、イカル(1)、スズメ(4)、ドバト(5)。計 22 種

快晴で絶好の探鳥会日和。新入会員さんや入会希望のかた、又、小さい子供さんも加わって、いつものようになごやかに川沿いを散策した。今回は深い池や湖に来るオオバンが 1 羽来ており、常連のバンとともに観察できた。

また、ツバメの今期初認を記録した。

● 木曾岬干拓地探鳥会

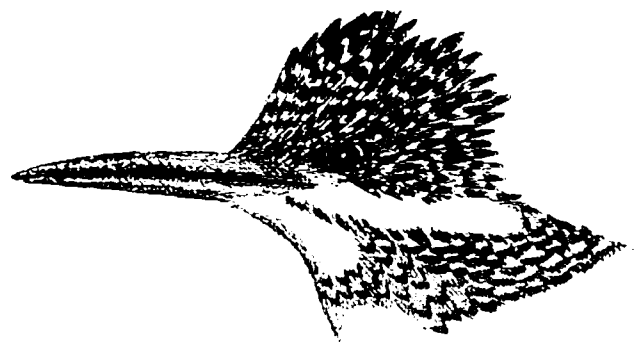
2009 年 3 月 22 日 (日) 9:00~12:00

弥富市 共催/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝・米倉 静 参加者 6 名

カイツブリ(8)、カワウ(30)、ダイサギ(2)、コサギ(1)、アオサギ(2)、マガモ(4)、カルガモ(15)、コガモ(30)、オカヨシガモ(1)、ハシビロガモ(3)、ホシハジロ(6)、キンクロハジロ(30)、ミサゴ(3)、ノスリ(1)、ハイロチュウヒ(2)、チュウヒ(3)、キジ(5)、オオバン(1)、ケリ(20)、イソシギ(3)、ユリカモメ(1)、カモメ(5)、キジバト(30)、カワセミ(2)、ヒバリ(20)、ツバメ(3)、ハクセキレイ(2)、ヒヨドリ(20)、モズ(2)、ジョウビタキ(1)、ツグミ(2)、ウグイス(3)、ホオジロ(20)、カワラヒワ(2)、スズメ(50)、ムクドリ(40)、ハシボソガラス(100)、ハシブトガラス(2)、ドバト(30)。計 39 種

探鳥会開始時はかなりの雨降り、参加者も 6 名とこの探鳥会としては非常に少ない人数でした。はじめは車の中から観察していましたが、やがて雨が上がってきたので、外へ出て観察を始めるとたくさんの鳥が出てきました。



● 藤原岳山麓探鳥会

2009 年 4 月 5 日 (日) 9:30~12:00

いなべ市藤原町

加藤 光廣・森田 久幸 参加者 10 名 (会員 9 名)

トビ、ケリ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計 22 種

夏鳥と冬鳥が混在し、またこの地域特有の植物観察もでき充実した半日であった。



● 五主探鳥会

2009 年 4 月 19 日 (日) 9 : 30 ~ 11 : 30

松阪市五主町 五主海岸コーナー

西村 四郎・久住 勝司 参加者 20 名 (会員 20 名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ウミアイサ、トビ、キジ、オオバン、シロチドリ、ケリ、ツルシギ、アオアシシギ、イソシギ、チュウシャクシギ、タシギ、セイタカシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、カワセミ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス。計 42 種

やっぱりツルシギはいいなあ〜。最後にセイタカ若 3 羽も出現しました。残っているカモ、カモメ類含めて、42 種観察できました。また、久住さんにより、通称「ボラ池」の名前を曾原排水機場を境に、北側を「大池 (北)」、 「大池 (南)」と呼ぶように提案がありました。

● 三重県民の森

2009 年 4 月 25 日 (土)

菰野町 三重県民の森

辻 秀之

雨天中止

● 木曾岬干拓地探鳥会

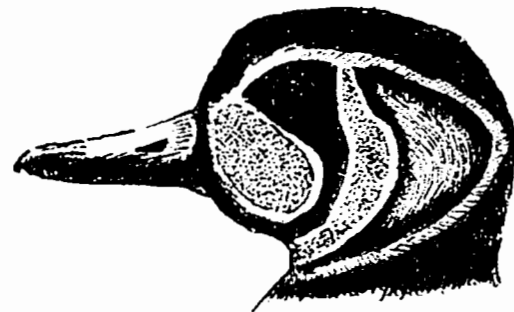
2009 年 4 月 26 日 (日) 9 : 00 ~ 12 : 00

弥富市 共催 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝・米倉 静 参加者 10 名 (会員 9 名)

カワウ(100)、ダイサギ(3)、コサギ(4)、アオサギ(5)、カルガモ(20)、コガモ(150)、シマアジ(1)、ホシハジロ(2)、キンクロハジロ(20)、ミサゴ(1)、トビ(1)、ノスリ(1)、チュウヒ(4)、キジ(15)、バン(1)、コチドリ(4)、ケリ(30)、クサシギ(2)、イソシギ(2)、チュウシャクシギ(1)、キジバト(10)、カワセミ(1)、ヒバリ(30)、ツバメ(30)、ハクセキレイ(2)、セグロセキレイ(1)、ツグミ(10)、ウグイス(3)、セッカ(20)、ホオジロ(2)、カワラヒワ(1)、スズメ(50)、ムクドリ(40)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(20)、ドバト(30)。計 36 種

先月に続き、参加者が少人数でした。この探鳥会では初めてのシマアジを見ることができました。また、チュウヒを木曾岬干拓地で何回も確認しました。



● 志原探鳥会

2009 年 5 月 3 日 (日) 9 : 00 ~ 12 : 00

御浜町志原

中井 節二・清水 勝海 参加者 7 名 (会員 3 名)

ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、トビ、コチドリ、キジバト、カワセミ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ。計 18 種

地元の方が少なく紀北町の方が、4 人参加していただき、少人数で探鳥会をしました。シギ、チドリが少なく、オオヨシキリ、ツバメの夏鳥と留鳥で合計 18 種と種類数も少なくなかったです。

● 朝明源流探鳥会

2009年5月9日(土) 9:00~15:30

菰野町 朝明溪谷

辻 秀之・川口 久美 参加者 16名(会員 9名)
ノスリ、キジバト、アオゲラ、コゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、カワガラス、ミソサザイ、コルリ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、イカル、カケス、ハシボソガラス。計 21種

雨天中止が続き、4年振りの開催となったが、五月晴れの下、ブナ清水と呼ばれる朝明川源流まで歩いた。源流ではミソサザイやヒガラのさえずりをおかずに昼食とした。

昼食後名残を惜しみながらブナ清水をあとにして、15時過ぎ全員無事に朝明大駐車場に下山した。

● 五十鈴川早朝探鳥会

2009年5月10日(日) 7:30~9:00

内宮宇治橋前より五十鈴川上流(1.5km)

竹林 康・林 淳子 参加者 15名(会員 13名)
カワウ(1)、トビ(1)、ノスリ(1)、サシバ(3)、インシギ(1)、キジバト(1)、コゲラ(1)、ツバメ(2)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(1)、セグロセキレイ(1)、ヒヨドリ(4)、イソヒヨドリ(1)、ウグイス(1)、キビタキ(1)、エナガ(10)、ヤマガラ(2)、シジュウカラ(5)、メジロ(5)、ホオジロ(2)、カワラヒワ(3)、イカル(2)、スズメ(2)、ハシボソガラス(3)、ハシブトガラス(2)。計 25種

天気は晴で申し分ない。しかし探鳥会の盛り上がりとしては今ひとつものたりない。林道(県道)の両サイドのすそ刈りがされていて、樹上高くに鳥がいるので確認がしづらい。道路としての見とらしはよいが、鳥にとっては少し問題。1000円高速道路のおかげで市外の人でも6人ばかりいた。



● 奥山権現探鳥会

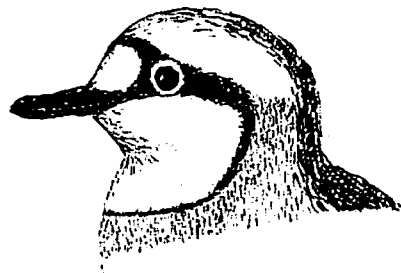
2009年5月10日(日) 10:00~12:00

伊賀市 滝

塗矢 尋一・田中 豊成 参加者 4名(会員 2名)

ミソサザイ(6)、オオルリ(4)、ヒガラ(2)、ヤマガラ(1)、カケス(4)。計 5種

ミソサザイがゆっくり観察出来た。声ばかりではなく肉眼でもしっかり見えてカメラにもおさまった。オオルリはたいふ山の上の方で鳴いていたが肉眼では見えなかった。



● 海蔵川探鳥会

2009年5月19日(火) 9:40~12:00

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

尾畑 玲子 参加者 14名(会員 12名)

カイツブリ(5)、カワウ(1)、アマサギ(4)、チュウサギ(3)、アオサギ(1)、カルガモ(4)、キジ(2)、バン(2)、コチドリ(2)、チュウシャクシギ(3)、キジバト(7)、カワセミ(2)、コゲラ(1)、ヒバリ(1)、ツバメ(3)、ハクセキレイ(1)、セグロセキレイ(1)、ヒヨドリ(4)、モズ(1)、ウグイス(2)、オオヨシキリ(1+)、セッカ(1)、ホオジロ(2+)、アオジ(1)、カワラヒワ(4)、スズメ(5+)、ムクドリ(4)、ハシブトガラス(3)、ドバト(6)。計 29種

うす曇りが広がり、暑からず寒からず絶好の探鳥日和、川の水は田植え後の影響で濁り、カワセミが困っていた。夏鳥が出そろった一方、冬鳥のアオジのさえずりを聞いた人もいた。旅鳥のチュウシャクシギが3羽、水田で採餌しており、参加者は大満足であった。

● 美杉探鳥会

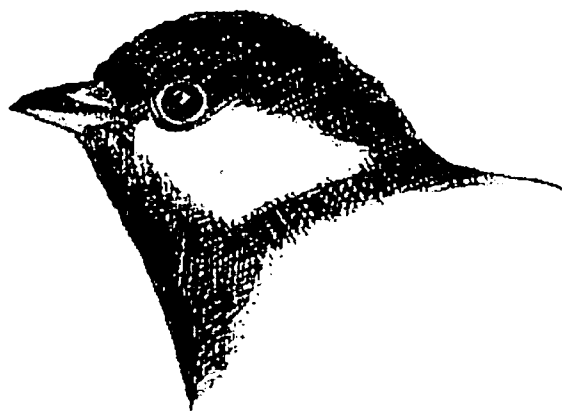
2009年5月23日(土) 16:30~20:30

津市美杉町 三重大学演習林

坂元 伸治・川口 久美 参加者 22名(会員 20名)

トビ、アオバト、コノハズク、ヨタカ、アカシヨウビン、コゲラ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ。計 16 種

コノハズクは遠いながらも何羽かの鳴き声が聞くことができました。暗くなるまでと、闇夜になってからの鳴き声は急に変化 7 時半を境に静けさの中で、夜鳴く鳥の声が聞こえてきます。今年はほとんどヨタカが、聞こえませんでした。毎年状況が大きく変化しています。来年は是非多くの鳴き声を期待したいものです。



● 木曾岬干拓地探鳥会

2009 年 5 月 24 日 (日) 9 : 00 ~ 12 : 00

弥富市 共催 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝・米倉 静 参加者 13 名 (会員 5 名)
カイツブリ (1)、カワウ (50)、ダイサギ (2)、コサギ (4)、アオサギ (6)、カルガモ (15)、コガモ (3)、キンクロハジロ (1)、ミサゴ (2)、チュウヒ (3)、キジ (20)、コチドリ (2)、ケリ (40)、アオアシシギ (2)、アジサシ (1)、コアジサシ (13)、キジバト (20)、カワセミ (1)、ヒバリ (20)、ツバメ (3)、ハクセキレイ (2)、オオヨシキリ (10)、セッカ (30)、ホオジロ (3)、カワラヒワ (3)、スズメ (100)、ムクドリ (10)、ハシボソガラス (70)、ハシブトガラス (10)、ドバト (1)。計 30 種

コアジサシだけでなく、アジサシも観察できました。水田ではケリがカラスを追い払っていました。

● 安部田探鳥会

2009 年 6 月 7 日 (日) 9 : 00 ~ 12 : 00

名張市安部田

小林 達也・田中 豊成 参加者 5 名 (会員 3 名)
カワウ、アオサギ、カルガモ、キジ、タマシギ、ケリ、キジバト、ホトトギス、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス。計 18 種

現地の水田は、田植え直後の為、苗が十分に生育しておらず、タマシギの隠れるところが少なかった。が、草刈りをしていない溝で、タマシギの♀各一羽を発見出来た。近くの雑木林では、アオサギのコロニーがあった。キジの♂が現れ、繁殖期に大きくなる、顔の赤い皮フが大きくなっているのが確認できた。タマシギを初めて見る人が 2 人おり、感激してくれた。

● 剣峠探鳥会

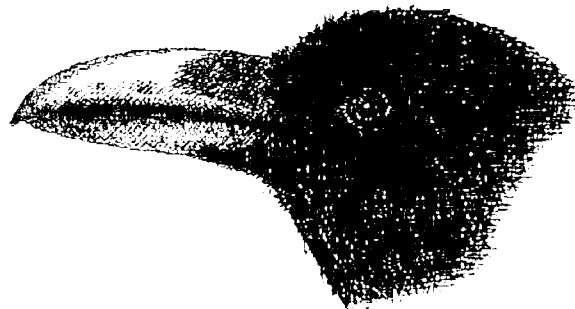
2009 年 6 月 7 日 (日) 8 : 00 ~ 12 : 00

伊勢市剣峠

竹林 康・林 淳子 参加者 7 名 (会員 7 名)

アカシヨウビン、アオゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、クロツグミ、ウグイス、オオルリ、サンコウチョウ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カケス。計 12 種

初夏の新緑の中での探鳥会としては最高の条件で行われた。人数限定で集合地より又、車に介乗して現地に向かった。ヤイロチョウ、キビタキこそ確認できなかったが、アカシヨウビン、サンコウチョウ、クロツグミ等とまあまあ成果。写真目的の人にも数人会った。特に問題はないと思われた。森林浴も十分の探鳥会でした。



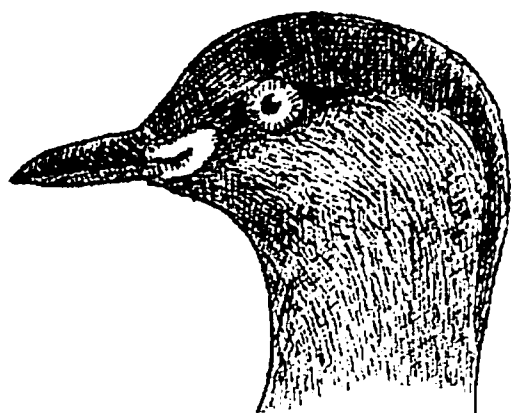
● 南青山高原探鳥会

2009年6月7日(日) 9:30~14:00

津市白山町伊勢見・青山高原保険休養地管理センター周辺

石原 宏・山川 健 参加者 18名(会員 16名)
タカ類の飛翔、キジバト、カッコウ、ホトトギス、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、オオルリ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、カケス、ハシボソガラス。計 18種

久々の晴天にめぐまれました。集合場所が若干わかりにくい場所かと思いましたが、予想をこえる参加者となりました。鳥たちも予想どりのカッコウ、ホトトギス等の出現で盛り上がり、全員で青いシバフの上で昼食をとり、平井支部長の講和などの後、解散となりました。尚、ホームページで見て参加された方が3人いて、その効果を実感した次第です。



しろちどり60号 正誤表

しろちどり60号正誤表 編集担当の校正が不十分でした。お詫びします。

P 8 野鳥記録

誤

正

ハシブトガラス(白変) → ハシブトガラス(白変)
スグロカモメ → ズグロカメメ (3カ所)

● 木曽岬干拓地探鳥会

2009年6月28日(日) 9:00~12:00

弥富市 共催/愛知県野鳥保護連絡協議会

米倉 静 参加者 22名(会員 9名)

カワウ(80)、ダイサギ(1)、チュウサギ(2)、コサギ(2)、アオサギ(3)、カルガモ(20)、キンクロハジロ(2)、ミサゴ(3)、トビ(1)、チュウヒ(2)、キジ(15)、ケリ(30)、イソシギ(4)、コアジサシ(5)、キジバト(5)、カワセミ(1)、ヒバリ(20)、ツバメ(30)、ハクセキレイ(6)、ヒヨドリ(8)、モズ(1)、オオヨシキリ(10)、セッカ(30)、シジュウカラ(2)、ホオジロ(1)、カワラヒワ(8)、スズメ(50)、ムクドリ(50)、ハシボソガラス(6)、ハシブトガラス(6)、ドバト(20)。計 31種

梅雨の中休み、移動した所で防波堤の上に動かないカワウがいました。近づいても羽も広げたままで、撮影会のモデルのようでした。体調不良かもしれませんが。木曽岬干拓地ではカゲロウがでず、飛んだ後松に止まったチュウヒや、枝で鳴くオオヨシキリがはっきり観察しました。

藤前干潟ふれあいデー2009



- 日時 10月24日(土)、25日(日) 10:00~16:30
- 会場 稲永ビジターセンター、名古屋市野鳥観察館(名古屋市港区野跡4-11-2)
藤前活動センター(名古屋市港区藤前2-202)
- 参加費 無料
- 主催「藤前干潟ふれあいデー」実行委員会
- 内容 2010年に生物多様性条約COP10が名古屋市で開催されることから、ますます注目される藤前干潟！COP10パートナーシップ事業としてイベントをおこないます！今回はナント！山～海のつながりを味わって実感できる展示、ちいさな生き物や野鳥の観察会、ワークショップ、音楽ライブなど、見て聞いて味わって楽しむ企画が盛りだくさん☆ 楽しめること癒されることまちがいなしです！是非おこしく下さい！！(詳細は下記の問い合わせ先へ)
- 問い合わせ 稲永ビジターセンター TEL 052-389-5821 FAX 052-389-5822
<http://www.city.nagoya.jp/> (藤前干潟ふれあいデーと検索)



しろちどり原稿募集

編集部では原稿を募集しています。鳥に関わるどのようなことでも結構です。

締め切りは10月15日です。

原稿は、編集担当 近藤義孝まで E-mail: fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp

住所 〒511-0123 桑名市多度町北猪飼521

編集後記

野鳥の会三重県支部に入り、15年たちました。皆さんにいろいろ教えていただきながら、野鳥について勉強できました。しろちどり編集にたずさわるようになり、創刊号から見直しました。「やるぞ」といった意気込みが伝わるような紙面を見ながら、励まされているようでした。

8月1日のNHKウィークエンド中部で木曾岬干拓地のチュウヒについて、取り上げてもらえました。COP10(生物多様性条約締結国会議)に向けて、チュウヒサミット2010を成功させるようにがんばりたいと思います。

Y. K.

しろちどり 61号

2009年8月11日発行

題字: 濱田 稔

表紙絵: 北川和則

カット: 坂元伸治

編集: 近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼521

発行所: 日本野鳥の会三重県支部

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印刷: 東海出版(有)

510-0885 四日市市日永4丁目5-48